

SESSION 2

CURRENT INITIATIVES: ACADEMIC TRANSLATION IN JAPAN 和英学術翻訳プロジェクトの現在

...

LTCB International Library Trust/ International House of Japan

Saji Yasuo

公益信託長銀国際ライブラリー基金／国際文化会館 佐治泰夫

国際文化会館の佐治でございます。私の方からは、長銀国際ライブラリーの
ことについて、少しお話しさせていただきます。

長銀国際ライブラリー事業と申しますのは、旧日本長期信用銀行が、1994年、
創立40周年を記念して、社会貢献活動として、長銀国際ライブラリー財団を設立
したことに始まります。経済的、文化的相互交流が飛躍的に活発化したこの国際社
会において、「日本の政治、経済、社会構造、ひいてはその背後にある日本人のもの
の見方・考え方」（財団「設立趣意書」より）を世界によく知ってもらう必要が
あり、そのためには優れた日本の著作を、実質的なグローバル言語である英語に翻
訳して公刊していくことが望まれる。しかしそれにかかるコストを考えると、とて
も商業ベースには乗らない。そこで翻訳・出版に要する費用を長銀が負担し、世界
各国の大学図書館、研究機関、公共図書館、国際機関、主要国政府機関、有力企業、
オピニオンリーダー、在外公館、在日公館等（海外2,800箇所、国内700箇所）に
無償で配布するというプロジェクトです。長銀はこうしたすばらしい企業文化を
持っております。

1994年当時、文学や伝統芸能などの分野では日本語著作の翻訳刊行はある程度
行われてはいましたが、社会科学分野におけるそれはまことに寥寥たるもので、こ
れを増やしていくことが急務だと設立者たちは考えました。そのようなことから、
長銀国際ライブラリー叢書は、人文・社会科学、とりわけ政治、経済、経営、比較
文化領域、日本思想（史）などにおける近刊書で、かつ、日本人のもの見方・考
え方・主張に関わる著作、あるいは日本のベーシックな事情を海外の人々に理解し
てもらうのに役立つと思われる著作を、毎年2冊ずつ英語に翻訳し、刊行してい
こうとしたわけです。

私は当時サイマル・インターナショナルの翻訳制作部におりまして、このプロジェクトをぜひ請け負いたいと思いました。その時はジャパタイムズと講談社インターナショナルも関心を示しておりまして、私は毎日のように長銀に通いつめ、まあ何とか契約にこぎつけることができたわけでございます。

このようにして事業は滑り出し、年2冊のペースで刊行を続けていったのですが、運悪くその頃の日本は、バブルが崩壊し、経済が衰退していております。私は、1996年にサイマル・インターナショナルから、別会社のサイマル出版会のほうに移っていたのですが、そのサイマル出版会は、出版不況のあおりを受けて1997年に出版事業を停止（1998年廃業）し、私は、長銀の子会社である長銀ビジネスサービス（株）翻訳部に席を設けていただいて、そこで国際ライブラリー事業を継続して担当することになりました。しかしご存じのように、1998年には長銀自体が破綻し、一時国有化される仕儀となってしまいました。長銀からの寄付と基本財産の利子によって工面するはずの事業運営費も、低金利の影響を受けて少なくなり、とうとう財団は行きづまって、解散せざるを得ない状態に追い込まれました。国際ライブラリー叢書のその段階での刊行点数は、準備中の2冊を別にすると、まだ8冊を数えるにとどまっております。

当初の計画では、毎年長銀から財団のほうに一定金額の寄付をしていき、それが14、5億円に達した時点で財団を独立させようと考えておられたようです。その計画が頓挫してしまったわけですが、1998年段階で、残余財産がまだ6億9千万円くらいありました。そこでこの資金を使って何とか事業を継続できないものかと考えたわけですが、財団というのは、解散時には、残余財産を国に納めるか、あるいは他の財団に寄付しなければいけないのですね。そうしないと解散することができない。しかしそれをやると、出版事業はあきらめなければならなくなってしまいます。そこで長銀国際ライブラリー財団の事務局の皆さんは、主務官庁である外務省に行って相談したのですが、その折衝の中で、公益信託基金に転換すれば何とかなりそうだということが分かりました。財団法人というのは、財産を取り崩していったはいけないのですが、公益信託基金システムだと、取り崩しが利くらしいのです。それで、これはおそらく財団法人から公益信託基金に転換した日本で初めてのケースだろうと思うのですが、財団の基本財産を、公益信託に移すことになりました。ただそれには信託銀行が受託者にならなければならないということございまして、当時の中央三井信託銀行（現在の三井住友信託銀行）を受託者として、残余財産を、長銀国際ライブラリー基金として信託銀行に委託しました。ちょうど遺産を、用途を指定して信託銀行に委託するのと似ているわけです。ただし信託銀行には翻訳出版の機能がありませんので、公益財団法人国際文化会館に基金の運営パートナーになっていただき、出版活動の全般を推進してもらうことになりました。まあざっと以上のような経緯で、2000年に、何とか事業の再出発にこぎつけられたわけでございます。

国際文化会館は、実は私の社会人としての最初の勤務先でありまして、私は2000年にその古巣に戻って、それ以来今日まで、このライブラリー事業を担当させてもらっているわけでございます。現在までに刊行いたしましたのが総計37点、あと3点出して40点になりますと、そこでちょうど基金を使い切ってしまうので、その段階ですべての事業を終了し、解散ということになるわけです。

以上が、長銀国際ライブラリー事業のあらましでございます。次に作業の手順についてご説明いたします。まず本の選定ですが、これには10名の委員から成る推薦委員会を設置し、そこで最初の選定作業を行います。各委員が、最近5年間に出版された本の中から、海外に紹介するにふさわしい本を2冊ずつ推薦します。10人の委員ですから20冊集まる勘定ですが、まあダブったり、1冊しか挙げない方もいらっしゃったりで、毎年だいたい15、6冊が上がってきます。それを一覧表にして各委員に配ると同時に、本の実物を希望される委員にお送りし、各委員に全作をお読みいただいて、それからほぼ2か月後に一堂に会して、1冊ずつ内容を吟味していき、15、6冊から4冊に絞ります。推薦委員会の仕事はそこまでで、もう一つその上に運営委員会というのが設けられていて、そこで推薦委員会から諮問された4冊から、最終の2冊に絞り込んでいただきます。この推薦委員会と運営委員会という二極構造についてはいろいろなご意見もございました。推薦委員会の審議はガラス張りで、そこに私情は入りにくく、その分推薦委員の方々にはプライドをお持ちで、なぜ自分たちが最終的に選べないのかという不満をお持ちの方もいらっしゃったのですが、でも何とかこの方式でやってきてしまいました。



翻訳出版する2冊が決まりましたら、著者のところに参りまして、刊行のご了承をいただきます。同時に日本語版出版社にもお伺いして了承をいただきます。出版契約を締結しますと、次は翻訳者の選定ということになります。まず著者のところに行って、先生ご自身はどなたか翻訳者で想定しているお方がいらっしゃいますかとお伺いします。たいていの場合はこちらに任されるのですが、著者自らが翻訳者を指定されたケースがこれまで2件ございました。1件はまったく問題なかったのですが、もう1件はあまりうまくいなくて苦勞した覚えがございます。翻訳者選びは本当に難しいところがあります。最初に上がってきた翻訳原稿がひどい場合、最初からやり直しになる危険があります。初動の段階で間違うと大変な思いをします。

私の場合は、幸いサイマル・インターナショナルとのご縁で、かつて翻訳してもらっていた人に翻訳をお願いすることができました。一度いっしょに仕事をしていたことがあって信頼が持てる翻訳者ですと、安心して仕事を任せられます。Jean Connell Hoffさん、Geraldine Harcourtさん、David Nobleさん、Brian Millerさん、Mary Fosterさん、Charles H. Stewartさんなど、優れた翻訳者に恵まれて、何とか今日までやって来られたわけでございます。

翻訳の実際は、ネイティブ翻訳者による翻訳、日本人チェッカーによるチェックとりサーチ、ネイティブ・エディターによるエディット、というプロセスを経て仕上げます。この三者間での連携プレイにより品質維持に努めるのですが、翻訳出版という形態では、さらに欧文組み版ルールに習熟したチェッカー、およびエディターの経験と能力が求められます。活字文化500年の伝統の中で培われた欧文組み版のスタイルに則り、日本から日本人の著作を英語で発信するために、世界の出版市場における一定水準以上の完成度をめざしてまいりました。

ずっとやって来た中で、強く感じたことをもう一つ申し上げますと、国際ライブラリーのリストNo. 30、ここにいらっしゃる渡辺浩先生のお書きになられた『日本政治思想史：十七世紀～十九世紀』（東京大学出版会、2010）の英訳は、作業が最もうまくいったケースとして記憶に残っています。といいますのも、著者の渡辺先生が、翻訳のプロセスに対して実に懇切にご協力くださったからです。最後の段階では渡辺先生を困み、チェッカー、エディター（翻訳者はe-mail参加）が、ワンパラグラフごとに渡辺先生のご教示をいただきながら、英訳の完成度を高めるために集い、2か月をかけて完成することができました。翻訳に著者の協力があつたらどれだけ良い翻訳になるかを目の当たりにしました。この本は、著者、翻訳者（David Nobleさん）、エディター（Janet Ashbyさん）、チェッカー／エディター（井元千香子さん）のチームワークも本当に良く、すばらしい出来栄の、翻訳出版のモデルケースとも言えるべき出版となりました。

翻訳作業についてはいろいろな問題がありますが、一つだけ具体的な例を申し上げますと、日本語の著書の中で、英語の本からの日本語訳の引用がなされている場

合、日本の場合は慣行上あまりうるさいことを言わないものですから、書誌的情報が十分に与えられていなかったりすることが少なくありません。それを英語に翻訳する際、当然原著の英語を引用しなければなりません、日本語版に掲載の書誌的情報が不十分な場合、その出典の探索がすべて翻訳者に任されてしまいますと、翻訳者が本を入手し、当該箇所を突き止めるのに非常に多くの時間と労力が必要になります。日本語の著書が、厳密な citation と documentation のルールに従っていれば、翻訳はずいぶんやりやすくなるはずですし、学問的にも良いことではないかと思われるわけでございます。また渡辺先生のように、著者が翻訳の際に協力を惜しまなければ、翻訳作業は大いに助かり、翻訳書自体の学問的評価にも大きな違いが出てくるのは間違いないことだと思います。

翻訳が完成し英語版が刊行されますと、今度はディストリビューションの段階に入ります。国際ライブラリーの本は無償配布が原則ですから、無償で配布してしまいますと、その年度の事業はそこで完結してしまいます。つまり、いわゆる絶版になります。寄贈先は団体がほとんどですから、一般読者はその団体に行かないかぎりその本にアクセスできないということです。それを何とかしたいということで、2006年に国際文化会館は I-House Press を立ち上げ、無償配布が終わって事業が完結した本を、今度は商業出版のリスクを負って有償配布する事業を開始しました。本が出版されますと、日本語の本の場合は、出版社が本を何冊か取次店に委託し、取次店は本を見てどこに持っていったらよいかを判断し、いろいろな店舗へ配布をするのですが、英語の本に関してはそれをやってくれないのです。書店から要請があった場合のみ取次店のほうから書店に送るとい形になります。それで I-House Press を立ち上げると、私は都内の主要な洋書売り場に足繁く通いまして、こういう本が出ましたからぜひ置いてくださいと頼んで回りました。置いてくれるとなると、書店から取次店に本を送れという連絡が入って、取次は I-House Press に注文し、そこでやっと本は店頭に並ぶことになります。しかし、出版営業を担当する人がいるわけではなく、私一人で、翻訳コーディネーションや、DTP での制作の合間を縫って出版営業に出かけるわけですので、時間の捻出がなかなか思うようにはいかず、やがて洋書売り場へ行く機会を持てなくなりました。

海外での販売の場合は、日本出版貿易というところがありまして、販売の手助けをしてくれます。ただ売れそうなのは主要な大学の図書館であって、長銀国際ライブラリーの場合、そういうところにはすでに無償配布してありますから、新規の購入はほとんど見込めません。ということで、一般的な販売方式はうまくいきそうもない。そこで American Friends of the International House of Japan——アメリカから国際文化会館に寄付をしようという場合、そこを通すと税金が安くなるのです——という別の組織に頼んでみようかと考えました。法人の定款を変更して出版業を加え、そこにアメリカのディストリビューションを受け持ってもらうと届出の直前までいったのですが、アメリカで本を売るには向こうに事務局を開いて人

を置かなければならないということが分かりまして、本が売れるかどうか分からないのにそこまではできないということで、その計画も立ち消えになってしまいました。そのため I-House Press はこれまでの業績の情報発信だけを行い、その情報を得た読者や団体から購入希望が寄せられるのを待つということにするよりほかありませんでした。幸いなことに、amazon.co.jp に情報をアップしていただいたので、何ら宣伝もしないのに、ネット社会の恩恵とも言うべきでしょうか、新刊が出て書評に取り上げられたりすると、注文が増えたりもしました。しかし微々たるものです。このように、日本から海外向けの出版をするためのインフラが非常に脆弱で、ディストリビューションの問題が一番大きなネックになっています。それを打開するには何か新しい方法を考えなければいけないと感じています。将来的には全部まとめて e-book のような形で売ることができないかというようなことも考えております。

長銀国際ライブラリーの中で商業的に最も売れ行きよかったのは、No. 17、中川武著『日本の家：空間・記憶・言葉』（TOTO 出版、2002）でした。次が河竹登志夫著『歌舞伎』（東京大学出版会、2001）、また静かな人気を保っているのが、No. 21、瀧井一博著『文明史のなかの明治憲法：この国のかたちと西洋体験』（講談社、2003）でございます。あと多くの方の評価が高く、独自の価値を持っていると感じる翻訳として、日本外交の原点として幕末の開国史を描いた No. 20、三谷博著『ペリー来航』（吉川弘文館、2003）、書に関する英語文献として類書のない No. 29、石川九楊著『書一筆蝕の宇宙を読み解く』（中央公論新社、2005）、日本における西洋画の曙光を描いて大変興味深い No. 34、今橋理子著『秋田蘭画の近代：小田野直武「不忍池図」を読む』（東京大学出版会、2009）などがあります。



長銀国際ライブラリー叢書は、公益事業の成果として 40 タイトルの刊行・配布を実現し、しかもそれを民間の力だけで行った叢書として、歴史的、文化的意義を持っていると思います。私どもの経験が今後の類似の試みにとってのご参考になれば幸いです。その意味でも、この叢書が散逸しないように今後も努力していかなければならないと考えております。

LTCB International Library series (下記 No. 1-8 は、長銀国際ライブラリー財団より刊行)

- (1) *Lectures on Modern Japanese Economic History 1926-1994* by Nakamura Takafusa (Professor Emeritus, University of Tokyo), 1994.
原著：中村隆英著『昭和経済史』（岩波書店、1985）
- (2) *Beyond the Full-Set Industrial Structure: Japanese Industry in the New Age of East Asia* by Seki Mitsuhiro (Professor, Hitotsubashi University), 1994.
原著：関満博著『フルセット型産業構造を超えて：東アジア新時代のなかの日本産業』（中央公論社、1993）
- (3) *The Economics of Work in Japan* by Koike Kazuo (Professor of Human Resource Management, Hosei University), 1995.
原著：小池和男著『仕事の経済学』（東洋経済新報社、1991）
- (4) *The Japanese Market Economy System: Its Strengths and Weaknesses* by Tsuru Kotaro (Senior Fellow, The Research Institute of Economy, Trade and Industry [RIETI]), 1995.
原著：鶴光太郎著『日本的市場経済システム：強みと弱みの検証』（講談社、1994）
- (5) *Shaping the Future of Japanese Management* by Tsuchiya Moriaki (Professor Emeritus, University of Tokyo) and Konomi Yoshinobu (Professor, Keio University Graduate School of Business Administration), 1997.
原著：土屋守章、許斐義信共著『これからの日本の経営』（日本放送出版協会、1995）
- (6) *The Japanese Family System in Transition* by Ochiai Emiko (Professor, Graduate School of Letters, Kyoto University), 1997.
原著：落合恵美子著『21世紀家族へ』（有斐閣、1994）
- (7) *The Economics of Development Assistance: Japan's ODA in a Symbiotic World* by Nishigaki Akira (Former President and Chairman of OECF) and Shimomura Yasutami (Professor, Saitama University), 1999.
原著：西垣昭、下村恭民共著『開発援助の経済学』（有斐閣、1997）

- (8) *The Postwar Conservative View of Asia: How the Political Right Has Delayed Japan's Coming to Terms with its History of Aggression in Asia* by Wakamiya Yoshiyumi (Managing Editor, Asahi Shimbun), 1999.
原著：若宮啓文著『戦後保守のアジア観』（朝日新聞社、1995）

以下、LTCB International Library Selection(下記 No. 9以降は、国際文化会館より刊行、同タイトルの有償配布版は、I-House Press より刊行)

- (9) *Japan in Trade Isolation, 1926–37 and 1948–85* by Ikeda Michiko (Ph.D. Economics, Harvard University). Tokyo: I-House Press, 2008.
- (10) *The Lancashire Cotton Industry and Its Rivals*, by Heita Kawakatsu (Governor, Shizuoka Prefecture). Tokyo: International House of Japan, 2018.
- (11) *Japan's Lost Decade* by Yoshikawa Hiroshi (Professor, University of Tokyo). Translated by Charles Stewart. Tokyo: International House of Japan, 2002. Revised and expanded edition, I-House Press, 2008.
原著：吉川洋著『転換期の日本経済』（岩波書店、1996）
- (12) *The New Middle Ages: The World System in the 21st Century* by Tanaka Akihiko (Professor, University of Tokyo). Translated by Jean Connell Hoff. Tokyo: International House of Japan, 2002.
原著：田中明彦著『新しい「中世」：21世紀の世界システム』（日本経済新聞社、1996）
- (13) *Kabuki: Baroque Fusion of the Arts* by Kawatake Toshio (Professor Emeritus, Waseda University). Translated by Frank and Jean Hoff. Tokyo: International House of Japan, 2003. Revised and expanded edition, I-House Press, 2006.
原著：河竹登志夫著『歌舞伎』（東京大学出版会、2001）
- (14) *Beyond the "Judgment of Civilization": The Intellectual Legacy of the Japanese War Crimes Trials, 1946–1949* by Ushimura Kei (Professor, International Research Center for Japanese Studies). Translated by Steven J. Ericson. Tokyo: International House of Japan, 2003.
原著：牛村圭著『「文明の裁き」をこえて』（中央公論新社、2000）
- (15) *In Search of Wisdom: One Philosopher's Journey* by Imamichi Tomonobu (Professor Emeritus, University of Tokyo). Translated by Mary E. Foster. Tokyo: International House of Japan, 2004.
原著：今道友信著『知の光を求めて』（中央公論新社、2000）

- (16) *Delivering the Goods: Entrepreneurship and Innovation in a Japanese Corporation* by Ogura Masao (Former Chairman, Yamato Transport Co., Ltd.). Translated by David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2004.
原著：小倉昌男著『小倉昌男経営学』（日経 BP 社、1999）
- (17) *The Japanese House: In Space, Memory, and Language* by Nakagawa Takeshi (Professor, Waseda University). Translated by Geraldine Harcourt. Tokyo: International House of Japan, 2005. Revised and expanded edition, I-House Press, 2006.
原著：中川武著『日本の家：空間・記憶・言葉』（TOTO 出版、2002）
- (18) *A Nagging Sense of Job Insecurity: The New Reality Facing Japanese Youth* by Genda Yuji (Associate Professor, University of Tokyo). Translated by Jean Connell Hoff. Tokyo: International House of Japan, 2005. 2nd edition, I-House Press, 2006.
原著：玄田有史著『仕事のなかの曖昧な不安：揺れる若年の現在』（中央公論新社、2001）
- (19) *Shrinking-Population Economics: Lessons from Japan* by Matsutani Akihiko (Professor, National Graduate Institute for Policy Studies). Translated by Brian Miller. Tokyo: International House of Japan, 2006. 2nd edition, I-House Press, 2006.
原著：松谷明彦著『「人口減少経済」の新しい公式』（日本経済新聞社、2004）
- (20) *Escape from Impasse: The Decision to Open Japan* by Mitani Hiroshi (Professor, Graduate School of Arts and Sciences, College of Arts and Sciences, University of Tokyo). Translated by David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2006. Revised and expanded edition, I-House Press, 2008.
原著：三谷博著『ペリー来航』（吉川弘文館、2003）
- (21) *The Meiji Constitution: The Japanese Experience of the West and the Shaping of the Modern State* by Takii Kazuhiro (Professor, University of Hyogo). Translated by David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2007. 2nd edition, I-House Press, 2007.
原著：瀧井一博著『文明史のなかの明治憲法：この国のかたちと西洋体験』（講談社、2003）
- (22) *Competing to Be Really, Really Good: The Behind-the-Scenes Drama of Capability-Building Competition in the Automobile Industry* by Fujimoto Takahiro (Professor, University of Tokyo). Translated by Brian Miller. Tokyo: International House of Japan, 2007. 2nd edition, I-House Press, 2007.
原著：藤本隆宏著『能力構築競争：日本の自動車産業はなぜ強いのか』（中央公論新社、2003）

- (23) *Maruyama Masao and the Fate of Liberalism in Twentieth-Century Japan* by Karube Tadashi (Professor, University of Tokyo). Translated by David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2008. 2nd edition, I-House Press, 2006.
原著：荻部直著『丸山眞男：リベラリストの肖像』（岩波書店、2006）
- (24) *Doing It Our Way: A Sony Memoir* by Ohga Norio (Former CEO, Sony Corporation). Translated by Brian Miller. Tokyo: International House of Japan, 2008. 2nd edition, I-House Press, 2008.
原著：大賀典雄著『SONYの旋律』（日本経済新聞社、2003）
- (25) *The Edo Inheritance* by Tokugawa Tsunenari (President, Tokugawa Memorial Foundation). Translated by Tokugawa Iehiro. Tokyo: International House of Japan, 2009. 2nd edition, I-House Press, 2009.
原著：徳川恒孝著『江戸の遺伝子』（PHP 研究所、2007）
- (26) *The New Paradox for Japanese Women: Greater Choice, Greater Inequality* by Tachibanaki Toshiaki. Translated by Mary E. Foster. Tokyo: International House of Japan, 2010. 2nd edition, I-House Press, 2010.
原著：橋木俊詔著『女女格差』（東洋経済新報社、2008）
- (27) *Demystifying Pearl Harbor: A New Perspective from Japan* by Iguchi Takeo (Professor emeritus, Shobi University). Translated by David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2010. 2nd edition, I-House Press, 2010.
原著：井口武夫著『開戦神話』（中央公論新社、2008）
- (28) *The Sino-Japanese War and the Birth of Japanese Nationalism* by Saya Makito (Professor, Keisen University). Translated by David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2011. 2nd edition, I-House Press, 2011.
原著：佐谷真木人著『日清戦争：「国民」の誕生』（講談社、2009）
- (29) *Taction: The Drama of the Stylus in Oriental Calligraphy* by Ishikawa Kyuyoh (Professor, Kyoto Seika University). Translated by Waku Miller. Tokyo: International House of Japan, 2011. 2nd edition, I-House Press, 2011.
原著：石川九楊著『書—筆蝕の宇宙を読み解く』（中央公論新社、2005）
- (30) *A History of Japanese Political Thought, 1600–1901* by Watanabe Hiroshi (Professor, University of Tokyo and Hosei University). Translated by David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2012. 2nd edition, I-House Press, 2012.
原著：渡辺浩著『日本政治思想史：十七世紀～十九世紀』（東京大学出版会、2010）

- (31) *Matsumoto Shigeharu: Bearing Witness* by Kaimai Jun. English adaptation by Waku Miller. Tokyo: International House of Japan, 2012.
原著：開米潤著『松本重治伝：最後のリベラリスト』（藤原書店、2009）
- (32) *The Power of the Weave: The Hidden Meanings of Cloth* by Tanaka Yūko (Professor, Hosei University). Translator: Geraldine Harcourt. Tokyo: International House of Japan, 2013.
原著：田中優子著『布のちから：江戸から現在へ』（朝日新聞出版、2010）
- (33) *Toshihiko Izutsu and the Philosophy of Word: In Search of the Spiritual Orient* by Eisuke Wakamatsu (Lecturer, Keio University). Translator: Jean Connell Hoff. Tokyo: International House of Japan, 2014.
原著：若松英輔著『井筒俊彦：叡知の哲学』（慶応大学出版会、2011）
- (34) *The Akita Ranga School and the Cultural Context in Edo Japan* by Imahashi Riko (Professor, Gakushuin Women's College). Translator: Ruth S. McCreery. Tokyo: International House of Japan, 2016.
原著：今橋理子著『秋田蘭画の近代：小田野直武「不忍池図」を読む』（東京大学出版会、2009）
- (35) *The Rise of Sharing: Fourth-Stage Consumer Society in Japan* by Miura Atsushi. Translator: Dana Lewis. Tokyo: International House of Japan, 2014.
原著：三浦展著『第四の消費：つながりを生み出す社会へ』（朝日新聞出版、2012）
- (36) *Japan's Asian Diplomacy: A Legacy of Two Millennia* by Ogura Kazuo (Professor, Aoyama Gakuin University and Ritsumeikan University). Translator: David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2015.
原著：小倉和夫著『日本のアジア外交：二千年の系譜』（藤原書店、2013）
- (37) *Holy Foolery in the Life of Japan: A Historical Overview* by Higuchi Kazunori (Professor, Tokyo Metropolitan University). Translator: Waku Miller. Tokyo: International House of Japan, 2015.
原著：樋口和憲著『笑いの日本文化：「烏訃（おこ）の者」はどこへきえたのか？』（東海教育研究所、2013）
- (38) *The Comfort Women: Historical, Political, Legal, and Moral Perspectives* by Kumagai Naoko (Associate Professor, International University of Japan). Translator: David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2016.
原著：熊谷奈緒子著『慰安婦問題』（筑摩書房、2014）

- (39) *How Like a God: Deification in Japanese Religion* by Sato Hiroo (Professor, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University). Translator: David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2016.
原著：佐藤弘夫著『ヒトガミ信仰の系譜』（岩田書院、2012）
- (40) *Return from Siberia: A Japanese Life in War and Peace, 1925–2015* by Oguma Eiji (Professor of Policy Management, Keio University). Translator: David Noble. Tokyo: International House of Japan, 2018.
原著：小熊英二著『生きて帰ってきた男：ある日本兵の戦争と戦後』（岩波新書、2015）